



小野 有理さん(48)
ダイヤモンドエレクトリックホールディングス
社長CEO兼グループCEO



1974年、大阪市生まれ。早稲田大第一文学部卒。経営コンサルティング会社に勤務後、2005年に独立。16年6月にダイヤモンド電機社長就任、18年10月からダイヤモンドエレクトリックホールディングス社長CEO兼グループCEO。早稲田大ラグビー部コーチとして清宮克幸監督の下で03年1月の日本一に貢献。

鳥取市のダイヤモンド電機が、脱炭素社会に向けて地産地消のエネルギーネットワークづくりを始めた。ダイヤモンドエレクトリックホールディングス(大阪市)の社長CEO兼グループCEO小野有理さんの肝いりだ。根底には鳥取の地で希望退職を募った断腸の思いがある。鳥取市長と面談し、胸に刻んだ決意が「鼓腹撃壤」だった。

(聞き手は論説委員長・深田巧)

未来に向けて

16年6月、私はダイヤモンド電機の社長に就任した。コンサルティングとして若手社員の教育に携わったことがきっかけだった。ダイヤモンド電機は米国の独自禁止法違反による経営が立ち行かなくなっていた。そのタイミングで、創業一族から経営を継承された経緯がある。19年1月に田淵電機(大阪市、現・ダイヤセラ)電機を仲間化(グループ化)した。ダイヤモンド電機との相乗効果や経利率を指す「吸引分割」というグループ再編の中で、21年10月、ダイヤモンド電機の社機能(大阪)の事務所が鳥取の工場へ移した。田淵電機が手がけていたパワーソリューションのユーザーなどを対象とする雇用創出を図った。

鼓腹撃壤に 脱炭素社会へ地産地消 エネルギー網構築へ



ダイヤモンドエレクトリックホールディングスの看板(大阪市)と点火コイルの生産現場(鳥取市) = 写真はコラージュ

ダイヤモンド電機はもと、1967年に製造拠点を鳥取の地に築いた歴史があり、現在は25人(2)の正社員は355人が働いている。このうち約100名が鳥取県内、月間80万~100万個を生産し、国内外の自動車メーカーに納品している。月間売上げは約8億円、2023年度までに1.5倍に増やしたい。また、パワーソリューションの製品もダイヤモンド電機で手がけ、量産する意向だ。

意図は、新しい時代に通用する職業を創出の取組を、具体的には地域と一体となって脱炭素社会を目指し、エネルギーの地産地消をかなるプランを鳥取県に提示し、鳥取が、鳥取市などを軸として実現したい。そのための経産省官費助成金や、鳥取市が受けた。関係機関は検討を重ねており、まずは「鳥取の脱炭素社会の未来に向けて」をテーマとするフォーラムを今年春に開催する。

単立ちの場所

実は、希望退職募集の際に鳥取県知事鳥取市長の連名推薦書を受けた。「引き継ぎの職業継続と再出発後の発展に努めていってほしい」と責任を持って万全の対策を尽くしていただくこと。地域経済の不安解消に最大限の配慮をいたして」とあった。再就職のめざせ、工場の建て直しに取り組みしていただけに、突然の要望書に当

感じたと言っけりも、怒りがこみ上げてきた。希望退職を募る幹部の面々も希望退職を受け入れる仲間たちもつらかった。私は知事、市長に腹を申し込み、経緯や取り組みを説明した。すると、深沢義彦市長は不快な思いをさせたことに応じてくれた。鼓腹撃壤。平和な世の中をつくるには為政者の務めだ。そして、経営者の務めは鼓腹撃壤がなすように促していることなのだと思っ。

鳥取の地について、私はもともと思うことがある。グループ戦略の中で鳥取は「果敢の場所」でもあろうと考えている。鳥取県は海井井流だ。「一井の中の蛙、大海を知らず」に、後世の人は「これぞの青き知る」と続けた。青きを知る強みを持って大海に出るような人材を輩出できれば、地元鳥取の発展を卒業し、ダイヤモンド電機に入社した仲間が大阪でパワーソリューションを営業する仕事に名前を上げた。若い人にとって、工場はなれば御の手も足りないが、それだけではない。未来をクルミアとして描いていく。

指導業として

私の両親は公務員だった。大阪市職員父の父親は難波別荘地区、在日ハセノ病など福祉の仕事をしてた。母親は保育士。だからこういうわけではないが、私はフットボールを通して「One for All」「All for One」を学び、空手始めて、「自己共栄志向」の自己確立した。コンサルティングになった。コンサルティングの仕事は助言業ではなく、指導業だ。一緒にやっていく責任を持つこと。社長の仕事も同じだ。鼓腹撃壤。社長の喜びはそこにある。(随時掲載)

編集後記

小野有理さんへのインタビューで、深沢義彦鳥取市長の名前が出た。しかも、市長が誇った名前が「一言印象的」だったため、市役所へ裏取りに走った。「小野さんはインタビューで市長発言を紹介し、○○○と語っていますが、いかがですか。市長に聞いたら、私は小野さんを信頼しています」と返ってきた。かくして、インタビュー記事に市長発言を盛り込み、その時の小野さんの受け止めを記事の柱にした。「鼓腹撃壤」の地産地消が今回のボイスの主眼です。